

前月末の子どもの姿

低月齢児：つかまり立ちが盛んになる・下痢などお腹の調子を崩す子がいた・人見知りが始まったり、後追いをする・手づかみで意欲的に食べる。

中・高月齢児：胃腸炎などお腹の風邪が流行する・友だちと関わって遊ぼうとする・手をつないで散歩する・食べ物の好みが出てくる・名前を呼ばれると手をあげて返事ができる・玩具の取り合いが見られる・興味があるものに指差しする

ねらい：指さしや喃語にตอบสนองしてもらうことで、言語を発することを楽しむ。体を十分に動かして遊ぶ。保育士の仲立ちにより、友だちと遊ぶことを楽しむ。

安全・健康：冬健康管理に配慮し、保育室の温度、湿度、子どもの衣服の調節をする。転倒によるけががないよう、子どもから目を離さない。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ●寒い冬を元気に過ごすようにする。また、体調や活動に合わせて衣類を調節してもらい、心地よく過ごせるようにする。 ●オムツが濡れていないときはトイレやオマルに行き、便器に座ってみようとする。 ●見守られているという安心感の中で、自分でしたいという気持ちを表現していく。 ○感染予防のため、食事の際は丁寧に手を拭く。 ○体調や活動に合わせて衣服を調節してもらい、心地よく過ごすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●エアコンや加湿器を併用することで、快適な温度、湿度を整える。 ●活動別にスペースを区切るなどし、子どもの生活を見渡せる、危険のない安全な環境を整える。 ○個別のガーゼを用意し、使用したエプロンは水洗いをして清潔にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●咳や鼻水など、風邪ぎみの子どもが増える。 ●感染症にかかる。 ●様々な場所へ行く。 ●保育者に、オムツが汚れたことを知らせる。 ○口や手を拭かれることを嫌がる。 ○自分で食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●十分に探索活動が行えるように保育環境を整え、けがのないよう職員間で連携し、子どもから目を離さない。 ●オムツが汚れたと感じたときに「おしっこ出た？」と声をかけ、少しずつ自覚できるようにする。 ●オムツが汚れたことを保育者に知らせたときは、十分にほめ、次の意欲へとつなげる。 ○感染症が流行り始めた場合は、感染予防のため玩具はこまめに消毒し、おやつや給食時も、より丁寧に手を拭き、消毒を行う。 ○「おてて、キレイキレイしようね」など優しく声をかけ、清潔にする。 ○楽しい雰囲気でする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの、運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ●保育者の語りかけを喜び、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ●保育者の仲立ちにより、友達と関わって遊ぶ。 ○つまんだり、引っ張ったり、握ったり指先を使って遊ぶことを楽しむ。 ○友だちや保育者と一緒に、同じあそびの雰囲気を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●十分に体を動かして遊べるよう、室内のレイアウトを工夫する。 ●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、引っ張るなどができる遊びのスペースや玩具を用意する。 ●安全に遊びを楽しめるように、スペースを広く取る。 ●声のトーンや話し方に気を付け、温かい雰囲気の中で言葉のやり取りを行う。 ○子どもたちが興味を持てる玩具や絵本を用意する。また、玩具の消毒を徹底する。 ○声のトーンや話し方に気をつけ温かい雰囲気の中で言葉のやり取りを行う。 ○少しずつ友だちの関りが楽しめるように、一緒に座って楽しめる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●登る、降りる、跳ぶ、くぐるなど、様々な体の動きを楽しむ。 ●保育者に援助を求める。 ●段差のところで転倒する。 ●声を出し、手をたたいて喜ぶ。 ●保育者の言葉をくり返したり、言葉のやり取りをしたりする。 ●積み木などで一人遊びをする。 ●友達のをまねをして、一緒に遊ぶ。 ●玩具の取り合いをする。 ○近くの玩具をつまんだり、引っ張ったりする。 ○手に取った物をなめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全な環境を整え、けががないように全体に目を配る。 ●問いかけに答えることで、簡単な言葉を話す楽しさを味わわせる。 ●気持ちを代弁しながら、友達と触れ合う楽しさを感じられるような言葉かけをする。また、友達との関わりがうまくいかないときは、子どもの気持ちが伝わるような言葉を引き出す。 ○手遊びは、体に触れながら、興味をもてるような工夫をする。

職員との連携：低月齢児、高月齢児と、保育者が分かれるなどして子ども一人一人に合った落ち着いた環境を整えられるようにする。

家庭との連携：体調についての連絡を密に取り、家庭でも感染症予防に努めてもらう。家庭には室内の温度・湿度を徹底管理していると伝え、薄手で動きやすい服を用意してもらう。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--